

巻頭言

「新たなスタートへ向けて」

足利工業大学看護学部 学部長 山門 實

“光陰矢のごとし”と申しますが、本看護学部も平成26年4月の創設より満4年、すなわち、完成年度となり、今春からは名称も足利大学看護学部となり、第2期として新たなスタートを切ります。

ところで巷では、平昌オリンピックでのメダル奪取でにぎやかです。私も、主要な競技はテレビ観戦し、声がかかる声援を送ったものです。ことに小平奈緒さんの金メダルには涙しました。と申しますのも、2016年7月に小平さんの所属する相澤病院が主催した第57回日本人間ドック学会学術大会の懇親会で、小平さんと「あなたならできます。自信を持って。」と親しく会話をし、サインをいただいたことがあるからです。小柄でしたがとても輝きのあるかわいらしい女性でした。ソチ五輪での経験を基に、4年間努力した結果での自信がその輝となっていたのでしょう。そして平昌では五輪新記録での金メダル。ベストをつくすこと、そこにおのずと結果はついてくるものです。

この4年間の努力は、くしくも私どもの看護学部第1期生も同様でした。4年間の学業に真摯に取り組み、見事、全員が看護学士となります。一つの目標の達成です。しかしながら、最重要課題であった看護師国家試験、保健師国家試験については、全員の合格を達成できませんでした。この結果については、私の教育目標である「自学自習」さらには「自学共修」が実現できなかったことによるものと考えています。すなわち、大学のみならず教育の場においてはすべてで「自学」が原則であり、教員はその手助け、学修への道を示すことで、ともに学修する、「共修」するものです。この国家試験対策については考慮すべきことが残されました。ことに全国模擬試験の結果から合格の危ぶまれた学生については、もっと積極的に指導すべきであったと反省しています。これらの学生の国家試験対策では、前記の「自学自習」では目標の達成は困難であり、「共修」でなければならなかったとの反省です。ただただ、申し訳なく思っています。しかし、この経験は必ず活かされます。また、活かさなければなりません。一度した失敗は、二度と繰り返してはなりません。この考え方は看護職になっても同様です。一つ一つの自分の経験を基に、自分のエビデンスとして、看護職としてのプロフェッショナルは進化させなければなりません。一日一日の進化こそ、プロフェッショナルです。

さて、いよいよ第1期生の卒業です。卒業あるいは学位授与は、graduationであるとともに commencement、すなわち「開始」でもあります。卒業の扉を開け、新たなスタートをするのです。新たなスタートは、学生のみならず私ども教員も同じです。本学部は、第2期を見据えての新たなスタートを切ります。まことに時を同じくして、旧足利赤十字病院の跡地の再開発による本城新校舎が落成し、新校舎での教育が、「自学共修」の理念のもとにスタートします。この新たなスタートに際しては、本学部では「看護学とは」を学ぶことも重要な位置づけではありますが、まずは、看護に関しての十分な知識と技能の確実な習得であり、そしてそれを基盤に答えが一つに定まらない問題を自ら解を見出していく思考力、判断力、表現力等の能力を獲得することです。実習を主体とする看護教育体系です。そして、これらの基となる主体性を持って多

様な人々と協働して学ぶ態度を身につけます。すなわち、看護者としてのプロフェッショナルオートノミーを基盤に、これらを学修します。プロフェッショナルは、自らを律することのできる自立性が不可欠です。この自律性の修得により、国家試験対策も自ら挑むことが可能となるでしょう。

さあ、卒業生の諸君はもとより、在学生の諸君そして本学部の教員各位は、ともに手を携えて「自学共修」の理念の基に、新たなスタートを切りましょう。努力すればできないことはありません。自分を信じて、真剣に向き合いましょう。